

広島地方裁判所御中

原告意見陳述 要旨

伊方原発運転差止等請求事件本案訴訟

2020年3月4日第18回口頭弁論期日

(第6陣原告) 意見陳述者 森川 聖詩 (被爆二世)

神奈川県川崎市在住

森川聖詩と申します。本日は、意見陳述の機会を与えてくださり、誠にありがとうございます。

本日は、なぜ私が、四国電力伊方(いかた)原発の運転を差し止める裁判に原告として参加する決意を固めたかについて陳述いたします。

私は、1954年、広島市中区で生まれました。

広島市に原爆が投下された時、父・森川定實は、当時のNHK広島中央放送局に勤務しており、局内2階放送部で被爆しました。ここは、現在は中区幟町・福屋百貨店の食品館になっています。爆心地からわずか1kmの場所でした。父は、2011年に生涯を終えるまで、白血球の減少、胃腸、十二指腸、腎臓をはじめとする内臓の病気、高血圧など、多くの病気や症状に悩まされていました。

私はいわゆる被爆二世です。

直接被爆していない私も、乳児の頃から体が弱く、原因不明の高熱で2回ほど死線をさまよった、と母から聞いております。

物心がついてからも、抵抗力や免疫力が弱く、小さなかすり傷などでも直りにくく、ほっておくと必ず化膿します。胃腸も弱くて疲れやすく、小学校の夏休みの思い出は、ただひたすら家で寝ていた記憶ばかりが残っています。

60を過ぎた今でもこのような体質は変わりません。

結婚して子宝に恵まれた、と思ったのもつかの間、日数が経過しても胎内で成長せず、個体としてこの世に生を受ける生命力がないことがわかり、涙を吞みました。

その後私の最愛の伴侶との間に子どもは授かっていません。

もちろん、健康体の被爆二世、三世の方も多い一方で、私のように、病気が

ちであったり、がん、白血病、心臓病など大病で亡くなったり、この世に生を受けられなかった二世、三世が現に少なからずいることを私は見たり聞いたりしてきました。

その数は、広島原爆の影響ではない、と言い切れぬほど多いのです。

低線量電離放射線の遺伝的影響については、現在対立する2つの説があります。国際放射線防護委員会（ICRP）は、「電離放射線の遺伝的影響はヒトではみられない」とする一方で、欧州放射線リスク委員会（ECRR）は分子生物学の最新研究の成果をもとに、「遺伝する」、としています。

どちらが正しいのか……。生き証人である私たちの実情が、真実を物語っていると確信いたします。

また、現時点において比較的健康であるという被爆二世さえも、その多くが「いつ放射線の遺伝的影響により、大病を患うのではないか？」という不安や心配を抱えながら生きてきたというのが現実です。

2011年3月11日、福島原発事故が発生しました。

広島、長崎、ビキニに続く日本が経験する4度目の大規模な核被害です。

私が親しくさせていただいている福島の原発被災者、あるいは福島から他地域への避難者の皆様やそのお子様のなかには、鼻からの出血や呼吸器系のいろいろな病気・症状や皮膚疾患、そして私が申し上げたように、傷口が治りにくく化膿しやすいと言われる方もいらっしゃいます。また、福島や避難先の地域や学校で深刻ないじめや差別も起きています。

私たちが経験した悲惨な状況の再現といって過言ではありません。

原爆の被害の特徴は、①熱線 ②爆風 ③放射線、と言われております。熱線や爆風はともかく、放射線の影響とその被害、という点においては、原発も原爆も全く変わりありません。

違いはその放射能の量です。広島原爆で核分裂したウランの量は約1kg。伊方原発3号機が通常運転でその原子炉に抱える核分裂性ウランの量は約3000kgといわれています。広島原爆の比ではありません。「死の灰」に換算すれば、伊方原発3号炉は、広島原爆の3000倍の死の灰を抱えていることになります。

もし伊方原発が重大な事故を起こしたらと考えると大きな不安を感じます。それは、広島、長崎、ビキニ、福島に続く第5の核惨事となるでしょう。多くの「被曝者」、あるいは私のような「被曝二世」、あるいは「三世」を生み出すことでしょう。私の生まれた広島町も、再び「死の町」となるでしょう。

このような事態は決して許されるものではありません。

地図を開くと、伊方原発は中央構造線断層帯という世界でも有数の断層帯のほぼ真上に位置しています。もちろん断層帯がすべて活断層というわけではないのですが、近年、その多くが活断層と認定されているそうです。南海トラフの巨大地震にしても愛媛県や伊方町はその震源域の中に入っていると聞きます。

大きな地震が頻発する日本列島の、なぜよりによってこんなところに原発など建てたのでしょうか？

また聞くとところによると、愛媛県当局は、南海トラフ巨大地震で、伊方町を震度7の地震が襲うと予測しているそうです。震度7の揺れがどの程度のものなのか想像もつきません。

この時、伊方原発は果たして無事にすむのでしょうか？

最近新聞報道によると、伊方原発では考えられないようなトラブルが相次いでいるそうです。そうした報道を見るにつけても、この原発を決して動かしてはならない、という思いを強く致します。

次世代以降に影響が及ぶ、核被害の生き証人・原爆被爆二世のひとりとして、「これ以上、核の被害者を生み出してはならない」、若者たち、子どもたちに「安心して暮らせる明るい未来を残したい」という切なる思いから、縷々申し上げました。

裁判長並びに裁判官のみなさま、伊方原発3号機の運転を止めてくださるよう、被爆二世として、ここに強くお願い申し上げます。

ご静聴、ありがとうございました。